

1 つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

世界の海の中で、もっとも深い場所といわれる「マリアナ海溝」。フィリピンの東、太平洋のまんなか近くに長くのびる深い谷のような場所だ。地球が形づくられたときにできた大きな海底のへこみで、長さはおよそ2500キロメートルにもなる。日本列島よりずっと長いことを思うと、その大きさに息をのむような気持ちになる。

マリアナ海溝の中でも、とくに深いところを「チャレンジャー海淵（かいえん）」と呼ぶ。深さは約1万メートル、つまり富士山をひっくり返して沈めてもまだ届かないほどだ。そこは、光がまったく届かず、温度はひんやりとして、水圧は人間の体ではとうてい耐えられないほど大きい。海の底に近づけば近づくほど、世界がまるで別の星になったようだと研究者が表現することもある。

こんなに深い場所だと、生きものはまったくいないのだろうか——とあってしまう。しかし、深海には私たちが想像もしない生きものがくらしている。体が透明で中がすけて見える魚や、ほそい糸のように光をはなつプランクトン、強い水圧に負けない体のしくみを持ったエビたち。研究者たちは「これらの生きものは、深海というきびしい世界に合わせて進化してきたのだ」と話す。

ふだん目にするのではない姿を見ると、自然のふしぎに心がひきつけられる。

マリアナ海溝を調べるために、人間は長い年月をかけてくふうを続けてきた。昔は深いところにおもりを落として「どこまで沈むか」を測るだけだった。しかし今では、丈夫な金属でできた「深海探査艇」が海の底までおろすことができる。この探査艇の外側は、とてつもない水圧に耐えられるよう、特別な形になっている。

「この技術があるからこそ、深海の世界が見えてくるのです」と専門家は言う。

探査艇が海淵に近づくと、ライトに照らされた水の

中に、ふしぎな生きものや地形が浮かび上がる。岩に穴があいていたり、泥の上に足あとのような跡がついていたりする。研究者は「これは何のしるしだろう」と目をこらし、海底にそっと耳をすます気持ちで観察を続ける。

深海は、まだまだ人類が知らないことだらけなのだ。

マリアナ海溝は、地球の歴史を知る手がかりにもなる。地面をつくる「プレート」という大きな板が海の下で動いており、マリアナ海溝のあたりでは一枚のプレートがもう一枚の下にもぐりこんでいる。この動きによって地震が起きたり、火山が生まれたりする。

海の底の動きを調べることは、私たちのくらしを守るためにも大切なのだ。

なぜ人々は、こんなに危険で遠い場所を調べようとするのだろうか。

その答えの一つは、「もっと知りたい」という気持ちにあるのかもしれない。暗闇の向こうには、まだ見たことのない世界が広がっている。その世界を知ることが、地球がどんな星なのかを知ることにもつながる。

——マリアナ海溝は、ただ深いだけの場所ではない。

そこには、地球のふしぎ、自然の力、そして人間の探究心がぎゅっとつまっているのだ。



- (1) 本文中の「――」が指している内容が書かれている一文を、本文からそのまま書き写しましょう。

- (2) 本文の「息をのむ」という表現の意味として正しいものを、次の中からえらび番号を○でかこみましょう。

- ① 深海の冷たさで息が止まりそうになること
- ② 驚きや感動で思わず静かに息を止めること
- ③ 苦しくなり、呼吸が乱れること
- ④ 長い間息を止めてがまんすること

- (3) 人間が危険をおかしてまでマリアナ海溝を調べようとする理由として最も合うものを、次の中からえらび番号を○でかこみましょう。

- ① 海底で新しい資源を見つけるため
- ② 観光地として利用するため
- ③ 地球の仕組みや歴史を知る手がかりになるため
- ④ 深海の生きものを地上で飼うため

- (4) 本文の内容と合っていれば○、まちがっていれば×を書きましょう。

- () チャレンジャー海淵は、富士山を沈めてもまだ足りないほど深い場所である。
- () 深海の生きものには、強い水圧に合わせて進化したものがある。
- () 深海探査艇は、昔から簡単に海の底まで行ける乗り物だった。

- (5) 主人公（筆者）は、マリアナ海溝の研究についてどんな気づきを得ましたか。本文の内容に合わせて四十字以内で書きましょう

- (6) 次の出来事・説明を、本文に登場した順番に並びかえましょう。

- ① 深海には、透明な魚や光るプランクトンなどの生きものがあると説明される。
- ② チャレンジャー海淵の深さや、深海の水圧・温度について述べられる。
- ③ 深海探査艇のしくみと、海底を観察する様子が紹介される。
- ④ マリアナ海溝の位置と全体の大きさが説明される。

↓ ↓ ↓

- (1) 本文中の——が指している内容が書かれている一文を、本文からそのまま書き写しましょう。

体が透明で中がすけて見える魚や、ほそい糸のように光をはなつプランクトン、強い水圧に負けない体のしくみを持ったエビたち。

- (2) 本文の「息をのむ」という表現の意味として正しいものを、次の中からえらび番号を○でかこみましょう。

- ① 深海の冷たさで息が止まりそうになること
- ② 驚きや感動で思わず静かに息を止めること
- ③ 苦しくなり、呼吸が乱れること
- ④ 長い間息を止めてがまんすること

- (3) 人間が危険をおかしてまでマリアナ海溝を調べようとする理由として最も合うものを、次の中からえらび番号を○でかこみましょう。

- ① 海底で新しい資源を見つけるため
- ② 観光地として利用するため
- ③ 地球の仕組みや歴史を知る手がかりになるため
- ④ 深海の生きものを地上で飼うため

- (4) 本文の内容と合っていれば○、まちがっていれば×を書きましょう。

- (○) チャレンジャー海淵は、富士山を沈めてもまだ足りないほど深い場所である。
- (○) 深海の生きものには、強い水圧に合わせて進化したものがある。
- (×) 深海探査艇は、昔から簡単に海の底まで行ける乗り物だった。

- (5) 主人公（筆者）は、マリアナ海溝の研究についてどんな気づきを得ましたか。本文の内容に合わせて四十字以内で書きましょう

解答例
深海には未知の自然や生きものがあり、調べることで地球を深く知れると気づいた。

- (6) 次の出来事・説明を、本文に登場した順番に並びかえましょう。

- ① 深海には、透明な魚や光るプランクトンなどの生きものがあると説明される。
- ② チャレンジャー海淵の深さや、深海の水圧・温度について述べられる。
- ③ 深海探査艇のしくみと、海底を観察する様子が紹介される。
- ④ マリアナ海溝の位置と全体の大きさが説明される。

④ ↓ ② ↓ ① ↓ ③